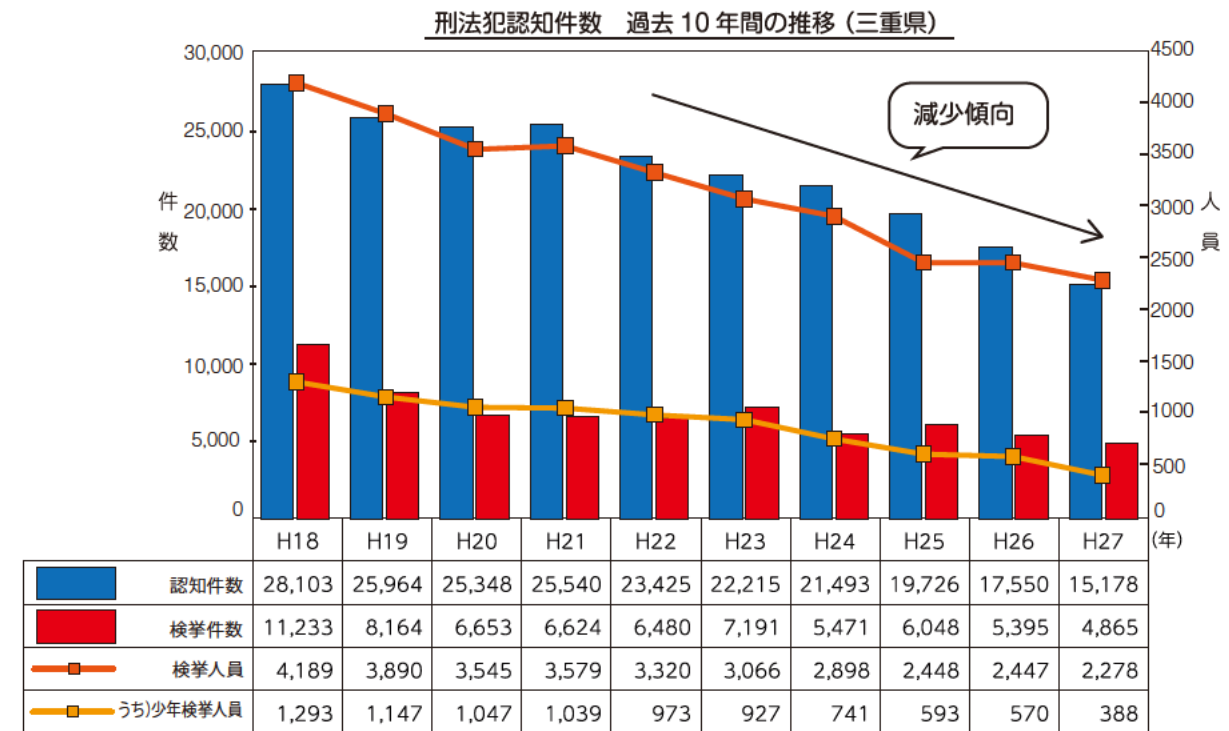


第2章 三重県の「安全で安心なまちづくり」に関する状況

(1) 犯罪と交通事故の状況

刑法犯認知件数は減少傾向にあります。

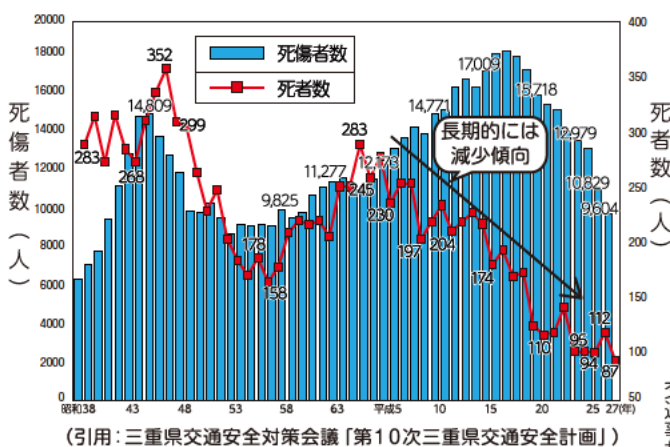


引用：三重県警察本部「三重県における刑法犯の認知・検挙状況 平成27年中」

※検挙件数：警察で検挙した事件の数をいい、解決事件の件数を含む。／検挙人員：警察において検挙した被疑者の数をいう。
 ／少年検挙人員：14歳以上20歳未満の者が犯した犯罪の検挙人員をいう。

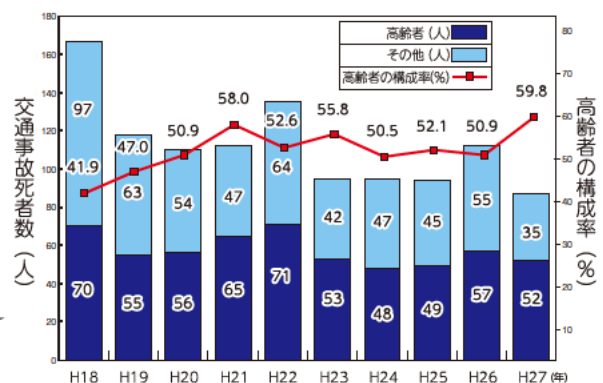
交通事故死者数は減少傾向にありますが、そのうち高齢者は高水準で推移しています。

県内の道路交通事故による死者数および死傷者数の推移



交通事故死者のうち、
高齢者の割合は高水準で推移

県内の交通事故死者における高齢者の推移



(2) 県民の皆さんの意識

<アクションプログラム策定に係る県民意識調査結果(抜粋)>

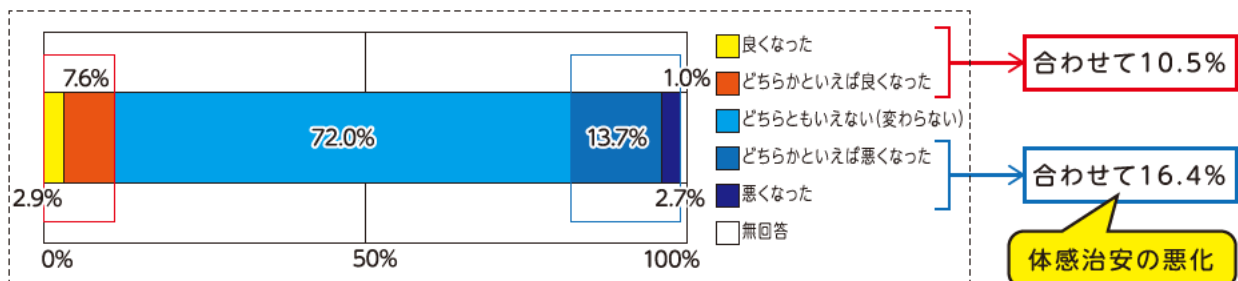
策定にあたって県民の皆さんの意識を把握するため、調査を実施しました。

調査の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○調査期間：平成 28 年 1 月 28 日～2 月 15 日 ○調査対象：県内在住の満 20 歳以上の方 3,000 人 ○抽出方法：県内全市町の選挙人名簿登録者から等間隔無作為抽出 ○調査方法：郵送配布、郵送回収、督促状はがき 1 回配布 ○回収結果：有効回答数 1,530 通（有効回答率 51.0%）
--------------	--

I 治安についての意識

① 住んでいる地域で、3年前と比べて治安がどうなったと思うか

○3年前より治安が良くなったと思う人の割合よりも、悪くなったと思う人の割合がやや高くなっています。



② 「治安が悪くなった」と思う理由(15個の選択肢から、いくつでも選択)

○犯罪自体が増加したからとする割合が最も高くなっています。

- ・「犯罪が増加した」36.4%【回答割合第1位】
- ・「子どもや女性、高齢者が被害に遭う犯罪が増加した」35.6%【第2位】

実際には刑法犯認知件数は減少しているが、相反した実感が表れている

○次いで、インターネット等で有害情報に触れるからとする割合が高くなっています。

- ・「インターネット等で様々な有害情報が氾濫するようになった」32.4%【第3位】

○約2割が、周囲の生活環境の防犯状況への懸念を示しています。

- ・「地域住民の規範・防犯意識や連帯意識が低下した」24.8%【第5位】
- ・「防犯カメラや防犯灯等、防犯設備の整備が進まなかった」24.8%【第5位(同率)】

II 被害に遭うおそれがあると感じている犯罪

① 日常生活で、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと感じる犯罪は何か(15個の選択肢から、いくつでも選択)

○空き巣などの侵入犯罪に脅威を感じるという割合が最も高くなっています。

- ・「空き巣などの侵入犯罪」73.8%【回答割合第1位】
- ・「自動車・バイク等の乗り物盗や車上ねらい」56.0%【第2位】
- ・「ひったくり、路上強盗」42.9%【第3位】

○約4割が、サイバー犯罪や特殊詐欺といった新たな形態の犯罪に脅威を感じています。

- ・「インターネットの利用等に伴うサイバー犯罪」41.1%【回答割合第4位】
- ・「振り込め詐欺等の特殊詐欺」39.4%【第5位】

○2割前後が、子どもや女性が被害者となる犯罪に脅威を感じています。

- ・「子どもの連れ去りやいたずら」27.5%【第6位】
- ・「痴漢、強制わいせつ等の性犯罪」22.0%【第8位】
- ・「つきまとい等のストーカー犯罪」15.0%【第10位】

Ⅲ 子ども・女性・高齢者を犯罪から守る対策、犯罪被害者等支援策

① 子どもを守る対策として強化してほしいことは何か(14個の選択肢から、いくつでも選択)

○最も回答割合が高かったのは、「警察官によるパトロール活動」(50.9%)です。

○次いで、防犯カメラ等の防犯設備・環境の整備強化を求める割合が高くなっています。

- ・「通学路など街頭への防犯カメラの設置」49.4%【回答割合第2位】
- ・「歩道の設置や交通安全施設の整備」44.2%【第3位】
- ・「学校、幼稚園、保育所等への防犯設備(防犯カメラ等)の設置」32.2%【第7位】

② 女性を犯罪から守る対策として強化してほしいことは何か

(10個の選択肢から、いくつでも選択)

○防犯カメラ等の防犯設備・環境の整備強化を求める割合が最も高くなっています。

- ・「道路や公園に防犯灯・街路灯・防犯カメラの設置などの環境整備」77.8%【回答割合第1位】
- ・「住宅・マンション等の防犯対策の促進」33.1%【第5位】

③ 振り込め詐欺等の特殊詐欺の被害に遭わないために最も有効だと思うものは何か

○犯罪に関する情報の提供・共有が最も有効だとする割合が上位になっています。

- ・「最新の犯罪手口に関する情報提供」16.7%【回答割合第1位】
- ・「家庭内における情報の共有とルール作り」11.8%【第2位】

④ 犯罪被害者やその家族・遺族が受けるおそれのある二次被害にどのようなものがあると思うか(7個の選択肢から、いくつでも選択)

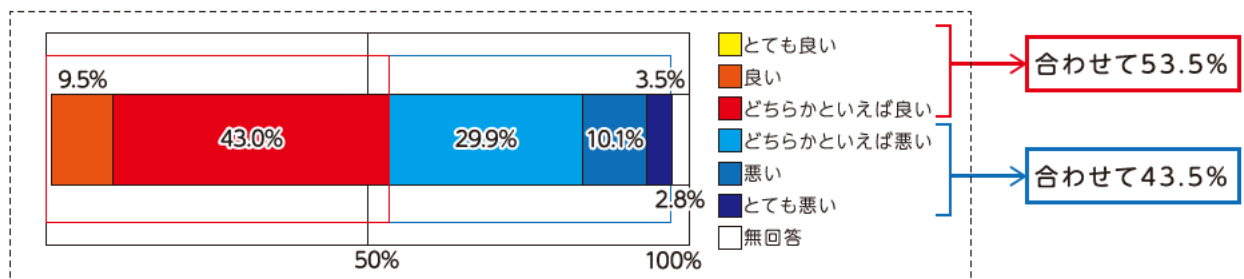
○精神的な被害を受けるおそれがあると感じている割合が最も高くなっています。

- ・「精神的被害」90.6%【回答割合第1位】
- ・「世間の誤解や中傷」75.0%【第2位】
- ・「マスメディアの取材等への対応」47.3%【第3位】

Ⅳ 交通安全

① 三重県内での交通ルールの遵守や自動車等の運転マナーをどう思うか

○良いと感じている割合が優位ですが、半数近くが悪いと感じています。



② 飲酒運転がなくなるのはなぜだと思うか(9個の選択肢から、いくつでも選択)

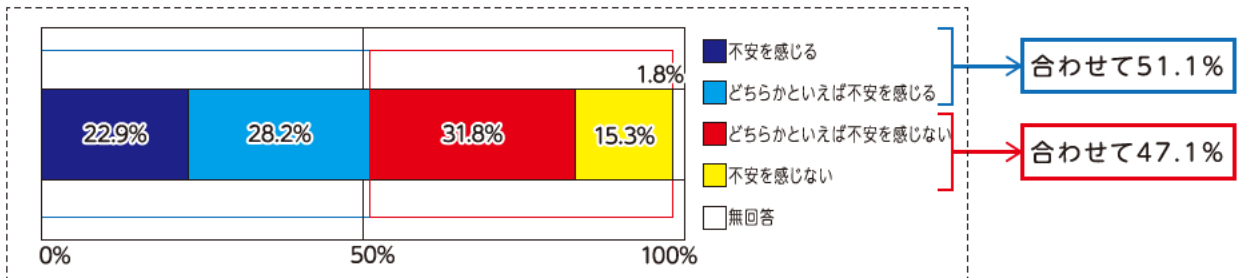
○飲酒運転を行う者の意識の低さを指摘する割合が上位を占めています。

- ・「少しくらいの酒なら大丈夫と思っている人が多い」84.2%【回答割合第1位】
- ・「捕まらないと思っている人が多い」65.6%【第2位】
- ・「飲酒運転の危険性を理解していない人が多い」56.9%【第3位】

V テロ

① 県内でテロが発生する不安を感じるか

○県内でもテロが発生するという不安を感じている割合がやや高くなっています。



② 「県内でテロが発生する不安を感じる」理由(9個の選択肢から、いくつでも選択)

○不安を感じる理由に伊勢志摩サミット開催を挙げる割合が最も高くなっています。

- ・「伊勢志摩サミットが開催される」91.4%【回答割合第1位】

「オール三重」の取組で、サミットは無事故かつ成功裏に閉幕しました

③ 県内ではどのようなテロが発生しうと思うか(10個の選択肢から、いくつでも選択)

○不特定多数が集まる場所で爆破テロが発生しうと思う割合が上位になっています。

- ・「大規模店舗、大規模集客施設等での爆破」52.9%【回答割合第1位】
- ・「駅、列車等の爆破」49.5%【第2位】

VI インターネット上のトラブル

① インターネット上のトラブルに巻き込まれた経験があるか

○1割超の人が、実際にトラブルに巻き込まれたことがあると答えています。

- ・「ある」13.0%
- ・「ない」85.0%

② どのようなトラブルに巻き込まれたことがあるか(6個の選択肢から、いくつでも選択)

○日常的なインターネットの利用で起こり得るトラブルに遭ったとする割合が上位になっています。

- ・「オンラインゲームやショッピングサイト等からの不当請求」45.7%【回答割合第1位】
- ・「メールによるウイルス感染」44.7%【第2位】

③ インターネット・ホットラインセンター^{*}について知っているか

○インターネット・ホットラインセンターの認知度は低い状況です。

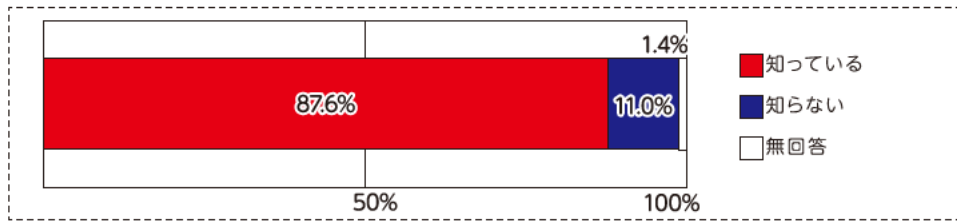
- ・「知っており、利用したこともある」+「知っているが、利用したことはない」17.8%
- ・「知らない」79.3%

※インターネット・ホットラインセンターは、インターネット上の違法・有害情報の通報受付窓口です。インターネット上の違法・有害情報の提供を受け、警察に情報提供するとともに、プロバイダ等に送信防止措置を依頼する等の業務を行っています。

Ⅶ 違法薬物等（危険ドラッグを含む）

① 違法薬物等の危険性について知っているか

○違法薬物等の危険性について知っている割合が、約9割と高くなっています。



② 違法薬物等の危険性についてどこで知ったか（10個の選択肢から、いくつでも選択）

○マスメディアを通じて知ったとする割合が上位になっています。

・「テレビ」 89.8% 【回答割合第1位】

・「新聞」 39.8% 【第2位】

③ 違法薬物等による被害を減らすために、どのようなことを強化すべきか

（6個の選択肢から、いくつでも選択）

○最も回答割合が高かったのは、「警察や関係機関による取締り」（66.0%）です。

○次いで、薬物乱用防止教室等の啓発活動の強化を求める人の割合が高くなっています。

・「学生を対象とした薬物乱用防止教室」 58.3% 【回答割合第2位】

・「薬物乱用防止に向けた講習会・研修会」 31.3% 【第3位】

～まとめ～

○刑法犯認知件数は減少傾向にありますが、「3年前よりも地域の治安は“悪くなった”」と答えた県民の割合は「良くなった」と答えた割合よりも高く、「悪くなった」と答えた人のうち36.4%が「犯罪が増加した」から治安が悪くなったと感じると答えています。

○7割以上の県民が、空き巣などの侵入犯罪に遭うのではないかと心配しています。

○2割～4割の県民が、サイバー犯罪や特殊詐欺、子どもや女性に対する犯罪に遭うのではないかと心配しています。

○3割～7割超の県民が、子どもや女性を犯罪から守るため、防犯カメラ等の環境整備が重要だと考えています。

○交通安全に関しては、特に飲酒運転根絶について、当事者の意識の低さに課題を見出す県民の回答割合が上位を占めています。

○伊勢志摩サミットの開催が、県民がテロを「他人事ではない」と考える契機になったと言えます。

○多くの県民が違法薬物等の危険性を認識しており、乱用防止のための啓発活動の強化を求めています。

【その他、県民の皆さんからの意見聴取】

外部有識者や関係団体の代表者等からなる懇話会「犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり推進会議」において、委員から意見をいただきました。（①平成28年5月10日、②同年9月7日、③同年11月16日）

また、自主防犯活動団体等、日頃から地域の防犯や交通安全に尽力いただいている県民の皆さんを訪ね、意見を伺いました。

いただいた意見や示唆は、アクションプログラムの内容に可能な限り反映しています。